2011年度
２－３月号
（通巻　138号）

市立 いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの写真館

撮影：土居幸雄さん

ジロボウエンゴサク
スミレを太郎坊、エンゴサクを次郎坊と呼ぶ地方があるそうです。春を告げる野草に対する思いが伝わってきます。

Ｐ１　いきもの写真館
ジロボウエンゴサク

Ｐ２・３　同じ場所を何度か訪れる
ふれあい農園から市営霊園
1月17日

Ｐ４　ひとつの花をじっくり見る
アケビ

Ｐ５　街かど自然探訪
福栄・野鳥を間近で観察

自然博物館の行事

Ｐ６　むかしの写真で見る 昭和の風景
市営霊園から長田谷津を望む

Ｐ７　わたしの観察ノート
11月～12月ごろの記録

Ｐ８　行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/

同じ場所を何度か訪れる

ふれあい農園から市営霊園

1月17日

【新春を飾る農家の花々】

梨農家さんが多いこの地区を歩くと、年間を通じていろいろな花が楽しめます。農家の方々は本当に植物を丹精されているので、歩くだけで道越しにあざやかな色に出会えたり甘い香りを感じることができます。この日は、早くも咲き始めたニホンズイセンと、どこからともなく漂ってくるロウバイの香りが印象的でした。ウメのつぼみもふくらみ、心なしかサクラの芽も大きくなっているようでした。日だまりではホトケノザやオオイヌノフグリの苗が青々としていました。パンジーやチューリップなどの園芸植物が咲くそばで、こういう春の野草が咲くというのが、本当の意味での里の春の風景かもしれません。

ニホンズイセン

【冬だから見える樹形・枝ぶり】

冬は、住宅地でも野鳥の姿がよく見られます。梨畑の間の農道を歩くと、メジロのにぎやかな声が聞こえてきました。垣根や庭先の常緑樹に身を潜めていて姿は見えませんでしたが、楽しそうな声がひとしきり聞こえていました。斜面林はやぶになっていて、奥から「チャッ、チャッ」という力強いウグイスの笹鳴きが聞こえました。最近は里山の手入ればかりがクローズアップされますが、ウグイスが潜むやぶや、メジロのための常緑樹も残してほしいと思います。

骨太のクヌギ

落葉樹が葉を落とした林は、どうしても寒々しい印象があります。そういう風景の中で、骨太の枝をゴツゴツと伸ばすクヌギの姿は堂々としていました。葉を落とした季節にしか気がつかない姿です。

【春を待つ動植物】

稲刈りのあとに伸び直したイネが茶色く枯れ、田んぼは冬枯れの景色でした。となりのレンゲ畑では小さな苗が伸びていましたが、ちょうど冷たい冬の空気に包まれた日で、緑の葉がむしろ寒々しい感じでした。ピンクの花に彩られるのは3か月ほど先のことです。

稲株のあいだから春の野草が伸び出す

ヨシやジュズダマ、セイタカアワダチソウなどの大型の草はすっかり枯れ、ヨシやアワダチソウには風で飛ぶタネがたっぷりついていました。茎にはオオカマキリの卵がありました。でっかいカマキリがうろうろしていたのは、つい3か月ほど前のことでした。田んぼの稲株の間では、春早い植物が伸び始めていました。タネツケバナも目立ちました。訪れた日が今年の旧暦「七草」まであと2週間ほどという頃だったので、若草が伸びるのは、ある意味、暦どおりなのかもしれません。

【市営霊園で目についた常緑樹】

市営霊園は春のサクラ、秋のイチョウが有名です。冬の時期は、大きな常緑樹が目につきます。大きくてテカテカしたアカガシは市内ではあまり見られませんが、市営霊園には何本もあります。スダジイの大木もあって、周囲に気兼ねする必要がないせいか、こんもりとした丸い樹形が遠くからも目につきました。モミの存在に気がついたのも冬だからでしょうか。まわりの木々の葉が落ち、とがった樹形がよく見えました。

市営霊園は市域の北東部の台地に作られています。大柏川が流れる谷を見下ろす位置になりますが、最近はいろいろな建物ができて、本来の地形が見づらくなりました。斜面の木が伸びたことも眺望を阻害しています。一方で冬は遠望が利きます。この日は都心方面が見え、東京スカイツリーの姿も見ることができました。

スダジイ

モミ

都内遠望

ひとつの花をじっくり見る

アケビ

アケビは実が食用になることで知られています。市内の雑木林でもふつうに自生していますが、果実はツルが這い上がって棚状にならなければ生らず、そこまで育つ前に切られてしまうので、あまり見ることがありません。花は春早く、市内では４月早々に咲いてしまいます。

写真は、アケビの雌花です。アケビの花は雄花と雌花が別々で、雄花は小さくてたくさん咲き、雌花は大きくて少数咲きます。花には花びらがなく、雌花では萼が花びらのように大きくなって花を目立たせています。雌花には太い雌しべが数本あり、先端はベトベトしていて花粉が付きやすくなっています。雌しべをよく見ると、縦に縫合されたような線があります。ここがパックリ割れて、アケビの実が開いた、おなじみの形になります。

街かど自然探訪

福栄（ふくえい）・野鳥を間近で観察

行徳野鳥観察舎には、２つの役割があります。１つは野鳥観察のための博物館、もう１つは傷病鳥の保護、いわゆる野鳥の病院です。病院ですから入院施設が併設されていますが、そこでは野鳥を間近でじっくり観察することができるので、ふだんの双眼鏡ごしの観察を補い、野鳥についての知識を深めることができます。例えば、大部屋にはいろいろな種類が一緒にいるので、大きさやスタイルの違いなどを比べることができます。また目に注目すると、人の白目の部分が赤、茶、赤茶、黄色といろいろあることまで見れます。ここには野外観察や図鑑では味わえない面白さがあります。

△　タカの仲間のトビをこんなに間近で見られます。
その他にも、フクロウやチョウゲンボウ、シギの仲間、ホオジロなどの小型の鳥などが入院していました。

自然博物館の行事

各行事の日程などの詳細は、毎号に掲載してゆきます。

風景を楽しみながら、ゆっくりと歩く、散策会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

◎長田谷津散策会

長田谷津（大町自然観察園）の四季折々の風景を楽しみます。（毎月１回予定）

◎季節を感じる散策会

市内の自然豊かな場所を巡り、季節の風景を楽しみます。（4・6・9・11・3月予定）

親子でご参加ください！
幼児を連れた方もどうぞ。

◎おやこ自然観察会

昆虫の観察を中心にした、自然観察会です。初めての昆虫採集やザリガニに触れる体験などを、親子で楽しく挑戦してください！

（5～9月予定）

長田谷津ボランティア

◎湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか

学芸員と一緒に、草刈りや水路掘などの作業です。湿地内に入る作業もあります。（毎月１回予定/８月休み）

◎野草の名札付けをお手伝いしてくださいませんか

学芸員と一緒に、長田谷津の野草に、季節ごとに名札をつけてゆく作業です。（4～11・2・3月予定）

平成24年度行事案内

ご希望の方は、80円切手同封の上、博物館までお申し込み下さい

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和４４（１９６９）年　撮影

市営霊園から長田谷津を望む

大野町４丁目の市営霊園から、すぐ下の谷を撮影した写真です。この谷は現在の「大町自然観察園」の下流に位置する部分で、ここから自然観察園までの長い谷を本来「長田谷津」と呼んでいました。一面に稲田が広がっていた谷底には、現在では斎場や霊園が作られ石材店が立ち並び、大きな倉庫も建てられました。そのため、全体の地形はわかりにくくなりました。

昭和の時代、市川市域は急速に都市化が進みました。しかし、もともとの地形を大幅に改変することはほとんどなく、台地は台地のままに、谷は谷のままに市街化が進みました。台地を大規模に削ったり谷を大量の土砂で埋め立てるような造成は、平成の時代になってから目立つようになりました。

わたしの観察ノート

◆大町公園より

・やわらかな日差しの、風のない暖かな日(11/1)。ツユクサなどが茶色く枯れ始めた湿地で、パチン、パチンとあちこちから音が聞こえてきました。よく観察すると、ツルマメのマメのさやがはじける音のようでした。決定的瞬間を見ていないのですが、はじけたさやがあちこちにあったので、間違いないと思います。乾いた日に勢いよくはじけることで、中のマメを遠くに飛ばします。

金子謙一(自然博物館)

◆堀之内より

・とても暖かい晩秋でしたが、歴史博物館の森で、オオスズメバチが約20匹程群れをなして飛びまわっていました(11/13)。

◆中国分より

・ジョウビタキのオスが２匹で庭のハナミズキの実を食べては１日中いったりきたりしていました(11/13)。

以上　道下　誠さん（中国分在住）

◆小塚山より

・カラ類の混群の中に、ムシクイ類１羽が混じっていました(11/3)。ずいぶん遅い渡りです。

◆里見公園より

・オジロビタキを見ました(12/25)。ところが、スダジイの木の中で鳴きながら動き回っていて、なかなか下に下りてきませんでした。かわいいルリビタキのメスタイプ１羽は、わたしの直ぐ近くに来てくれるのですが・・・。

◆坂川旧河口一帯より

・ビオトープ池先江戸川の岸辺のオニグルミの木にとまって鳴き声をたてるツグミ１羽は、一帯ではこの冬の初認です(11/23)。かなり、飛来が遅かった模様です。

・里見公園下江戸川の岸近くにオオバンが数羽の群れで見られるようになりました(12/17)。人間にも馴れてきたようです。

・シメ１羽が柿の木にとまって鳴き声を出しました(12/25)。一帯では待ちかねた初認です。

◆江戸川より

・おそらく千に近い単位(?)のカワウの大群が見事な編隊をくみ、川を遡って次々と上流方向へ飛んでいきました(11/20)。羽音が聞こえるほどの低空を飛ぶなど、あまりに壮観な眺めだったため、写真をとるのも忘れて見入ってしまいました。またその後、オオタカ１羽が川を斜めに横切って、国府台の林へ姿を消しました。

以上　根本貴久さん（菅野在住）

◆中山より

・大きなツルウメモドキのつるがあります(11/18)。子どもがブランコできるほどで、樹齢もそれなりの感じです。ちょうど実がなっていて、黄色い皮と朱色のタネの対比がきれいでした。

金子謙一

暖かい日が続いて、なかなか紅葉が進みませんでした。葉もなかなか落ちず、冬至になっても紅葉がきれいでした。

行　事　案　内

長田谷津　散　策　会　お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月１回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

・日　時　　３月３日㊏、４月７日㊏、５月５日㊏、　午前10時～11時30分

・集合場所　　動物園券売所前　午前10時

季節を感じる　散　策　会　お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
江戸川沿いの林	3月18日㊐午前10時～11時30分	国府台周辺
春の江戸川土手	4月22日㊐午前10時～11時30分	里見公園下江戸川土手

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか。（雨天中止）

・日　時　　２月26日㊐、３月25日㊐、４月29日㊐、　午前10時～12時

・集合場所　　観賞植物園入り口　午前10時

・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いしてくださいませんか。（申し込み不要・雨天中止）

・日　時　　３月４日㊐、４月８日㊐、５月６日㊐、　午前10時～12時

・集合場所　観賞植物園入り口　午前10時

・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

臨時休館のお知らせ

２月21日㊋より24日㊎まで
展示室整備のため臨時休館いたします。
なお、動植物園・自然観察園は
平常通り開園しております

第23巻　第６号　(通巻第138号)
平成24年２月１日　発行
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/